

平成 30 年度 河内長野市立市民公益活動支援センター指定管理者制度評価シート

1. 基本情報

(1) 施設概要

基本項目	名称	市民公益活動支援センター（愛称：るーぷらざ）
	所在地	河内長野市昭栄町 8-12
	開設	平成 19 年 11 月 29 日
	利用対象	市民公益活動を行っている、またはこれから行おうとする個人や団体
	開館	休館日：毎週火曜日及び年末年始 開館時間：9:00～21:00 土日祝は 9:00～17:30
役割・機能	設置目的	市民公益活動を支援し活性化を図るとともに、協働を促進し、公益の増進に寄与すること
	基本的な役割	・市民公益活動の活性化 ・ネットワークづくりの促進 ・協働の促進（仲介機関としての役割）
	主な機能	・情報の収集及び提供機能 ・人材育成機能 ・連携及び交流促進機能 ・相談・助言・コーディネート機能
運営	運営方式	指定管理者制度
	指定管理者	NPO 法人はぴえる（理事長 西村道夫）
	指定期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日（3 期目）
	指定管理料	11,571,000 円（平成 30 年度） （ソフト事業：1,054,091 円、人件費：7,079,789 円、管理費：2,734,830 円、その他 702,290 円）

(2) 利用状況

	平成 30 年度	平成 29 年度	増減
来館者数	9,042 人	10,070 人	△1,028 人
登録団体数	128 団体	128 団体	0 団体
利用団体数 *	229 団体	—	—
貸ブース(全 9)	6 ブース	5 ブース	1 ブース
貸ロッカー(全 26)	12 個	12 個	0 個
相談件数	100 件	102 件	△2 件
	（相談の内訳） ①マッチング 28 件 ②ボランティアをしたい 18 件 ③ガイドブック掲載に関する事 14 件 ④団体運営・行事計画、団体立上げなど 11 件 ⑤支援センターの使用・利用に関する事 5 件 ⑥支援センター主催事業 3 件		

⑦自治会・老人会・子供会等の活動に関する事 2 件
⑧広報・掲示、情報提供など 2 件
⑨まちづくり協議会、まちづくり等の活動に関する事 1 件
⑩その他 16 件

*未登録団体も含め、るーぷらざを利用している団体数です。

(3) 利用者ニーズ・満足度の把握（利用者アンケートより）

調査方法	センター内にアンケート用紙及び回収BOXを設置
実施期間	平成 31 年 2 月 10 日～3 月 25 日
質問項目	①一般事項 性別年齢・所属・用件・利用月日時曜日帯 ②るーぷらざの管理・運営 ③センター運営事業の認知状況 ④SDGs の認知状況 ⑤その他意見・要望
調査結果	回収 77 件 【主な意見・要望等】 ①初めて利用したが便利だった ②雰囲気がとても良かった ③要望：防災クッキング・健康体操講座・レクレーション講座など

【参考】平成 29 年度指定管理 第三者評価

平成 29 年度の指定管理者の活動については、提案項目に基づき、様々な事業に取り組んでおり、中でも施設の管理を真摯に行なっている点、企業や学校との新たなネットワークの開拓に努めている点について評価する。

また、平成 28 年度の指摘事項については、相談に関するスタッフ研修を実施するなど、相談を受ける体制の拡充は図られたが、一方で、社会状況の変化に伴う新たな活動に対し、十分に対応できていない点が見受けられた。

ここ数年、社会的起業という形でビジネスとして社会貢献を行うなどの新しい動きが出てきている中、市民公益活動支援センターとしてこれらのニーズに応じた支援が行えるよう、スタッフが様々な方面に触手を伸ばし、社会状況等についての確かな認識を持ちながら、必要とされるスキルの向上を図っていただきたい。

今後においては、市民公益活動支援センターに求められる機能を十分に満たすことができるよう、今一度、センターの目的を行政と共有し、基盤となる機能の拡充を図るとともに、社会状況を踏まえた、より効果的な市民公益活動の支援や協働促進に努めていただきたい。

2. 事業の実施状況及び評価

(1) ソフト事業

① 情報の収集・提供に関する事業

状態				
<p>ア. 常に、社会状況の変化に合った情報を収集する。</p> <p>イ. 収集した情報をもとに、社会ニーズに合った情報の提供を行う。</p> <p>ウ. 多様な広報媒体による様々な世代に対するアプローチする。</p>				
取組みと成果・課題				
取組み・実績		成果・根拠		課題
ア、イ	・ボランティア・市民公益活動紹介冊子の作成 (①ガイドブック 200 部、②一覧表 (入門者用) 600 部、③一覧表 (施設等向) 200 部)	団体・個人・施設等のマッチング、既存団体へのガイドブック掲載促進、新規団体立ち上げ時の参考資料等に活用できた。一冊に全てをまとめず使用目的に応じた分冊化 (スリム化) を図り、より細かなサポートをすることができた。	入門編・マッチング篇と機能分化を目指したが、ネーミングが不明瞭で意図が伝わらなかった。	
ア、イ	・支援センター情報紙「るーぶらざだより」の発行 (年 5 回 : 春・夏・秋号 1,500 部 冬号 2,000 部、秋臨時号 500 部)	冬号はボランティア・市民活動フェスティバル特集とし、当日パンフに利用できた。臨時号として、大阪大谷大学インターンシップ学生による編集・作成で若者の関心を引いた。	数珠つなぎでは「市民活動担い手の素顔を紹介」という意図であったが、紹介の継続を維持するために趣旨があいまいになってきた。一時中断して新企画を検討。	
ウ	・ホームページの管理運営、フェイスブックの運用 (アップ数、シェア数、いいね数等)	ホームページに「団体プロフィール」を掲載し、各団体のホームページ・ブログとリンクできた。日々更新が必要な情報はフェイスブックで発信した。アップ 25 回、いいね 219 個、シェア 27 個。	現役世代への訴求力強化。団体へのインターネット利用促進。ガイドブック掲載団体のチラシのアップを検討。	
ア、イ	・他市施設の調査・研究 H30.12.11 大津市市民活動センター 12 名 (はぴえる会員 10 名 + 市職員 2 名)	SDGs を先進的に取り組みがなされており、企業や大学との連携・子育て世代への啓発等の情報を収集し、「南河内のつどい」で情報共有、ボランティア・市民活動フェスティバルで展示するなど情報発信できた。	来期以降の行先を、今回の経験を踏まえ多角的に検討していく。	
受託者評価		A	行政評価	B
<p><めざす姿・状態へのコメント></p> <p>ア. 基本的な情報の収集・提供を問題なく行うことができた。</p> <p>イ. 個人情報保護など、時代に合った取組みを行った。</p> <p>ウ. SDGs の啓発などタイムリーな情報を載せ、市民や団体に紹介できるようになった。・SNS・ホームページの更新等、まだまだ改善の余地がある。</p> <p><その他></p>			<p><めざす姿・状態へのコメント></p> <p>ア. SDGs 等の社会状況の変化に対し、情報収集出来ている。</p> <p>イ. SDGs 等の啓発が実施出来ている。</p> <p>ウ. HP・フェイスブック・ツイッター等の SNS 更新が滞っていることもあり、改善を求む。</p> <p><その他></p> <p>・テーマ型団体以外の地域型組織等、既存団体以外も支援出来るよう情報収集・提供にも努めてもらいたい。また、情報提供に関しては、特に誤植等を防ぐ方策を検討してもらいたい。</p>	
今後の取組みの方向性		方向性に対する行政コメント		
<p>・ガイドブック 3 分割の周知を行う。</p> <p>・定番情報に加え、ニーズに合った情報を提供していく。</p> <p>・現役世代へ訴求力のある情報提供の強化</p> <p>・適切なネーミングでガイドブックの機能分化を図る。</p>		<p>・利用者視点でガイドブックの更新等は積極的に取り組んでいてもらいたい。また、分かり易い表現等に努めてもらいたい。</p> <p>・社会状況の変化に即応した情報収集し、ニーズに合った媒体を活用し、情報提供に努めてもらいたい。</p>		

※評価は、S : 期待以上に出来ている、A : 期待通りに出来ている、B : 一部に課題はあるが、出来ている、C : 要改善 の意味。

② 学習機会の提供に関する事業

状態				
<p>ア. 適宜勉強会や各種講座等を開催し、市民公益活動への参加促進や活動団体のスキルアップ、協働の促進に努める。 イ. 各種講座等を実施し、市民公益活動や協働の担い手の育成を行う。</p>				
取組みと成果・課題				
取組み・実績		成果・根拠	課題	
ア	ボランティア入門講座 ～世界に活かそう あなたの力～ テーマ：SDGs とは何か その概要と特徴 94名	SDGs と身近なボランティア活動の関連性（グローバルな視野でローカルな活動）等、より多くの情報を提供できた。インターアクトクラブ部員高校生11名の参加により、広範囲な世代間交流ができた。	SDGs の紹介・より実践的な取組と、ボランティアの「楽しさ」「やりがい」等魅力の更なる発信。学生を含めた現役世代の更なる取り込み。	
イ	ボランティア活動体験プログラム 参加者：390名 参加団体：18 企画プログラム数：29 実施プログラム：24（台風等の影響による中止：5）	昨年に引き続き多数の参加者があった。団体側ではプログラムのための学習を積み、次の活動へのステップになった。	台風等による中止の緊急連絡方法の早い時点での確認。実施時期の検討。参加団体自身による人材確保のための情報発信の強化が問われる。	
ア、イ	グループ運営講座 簡単なホームページの作り方と これからのホームページの使い方 21名	インターネットの基本とホームページのメリットの周知を図ることができた。	1回だけの講座では、時間の都合上概略説明にとどまり、実際に作成することはできなかった。	
受託者評価		A	行政評価	A
<p><めざす姿・状態へのコメント> ア. SDGs の活用によって、高校生も含めた現役世代への訴求力が高まり、既存団体の活動内容の振り返り・モチベーションアップにつながった。 イ. 次代のボランティアの担い手発掘の方向性ができた。 <その他></p>		<p><めざす姿・状態へのコメント> ア. SDGs をテーマに取り組み、昨年までにはない若年層の参加があったことやグループ運営講座で団体の情報発信のきっかけづくりにつながっている点は評価できる。 イ. 発掘したニーズや人材に対し、次につながる仕掛けを検討してもらいたい。 <その他> ・会計に困っている団体も多いことから、会計に関する講座等の検討してもらいたい。</p>		
今後の取組みの方向性		方向性に対する行政コメント		
<p>SDGs のより具体的な取組方法・ボランティアの魅力の発信方法を探る。 引き続き、体験プログラムでの団体独自の宣伝の活性化、受け入れ態勢の強化に努める。 パソコン関連はグループ運営講座として継続する。また、講師をパソコンクラブにお願いするなど、掲載団体の活動の活性化にもつながる講座を開催する。</p>		<p>・SDGs をツールとして団体の活性化につながるような学習の機会提供に努めてもらいたい。 ・団体の活動体験に留まらず、団体が活性化できるように繋げてもらいたい。 ・活動団体のニーズに沿った講座運営に努めてもらいたい。</p>		

※評価は、S：期待以上に出来ている、A：期待通りに出来ている、B：一部に課題はあるが、出来ている、C：要改善 の意味。

③ 交流促進に関する事業

状態		
ア. より効果的に市民公益活動が展開されるよう、市民公益活動団体や地域型組織など様々な組織間のネットワークの促進を図る。		
イ. 様々な場面で既存団体以外の新たな動きを捉え、多世代（特に若い世代）の交流促進を目指す。		

取組みと成果・課題		
取組み・実績	成果・根拠	課題
ア、イ 市民まつり テント来観者 約 200 名	当日、雨天のための混乱はあったが、ヨーヨー釣りなどで親子連れが増えたこともあり、展示パネルやチラシスタンドをじっくり見てくれる人が増えた。啓発用風船を来場者自身に作ってもらうなど、子どもから大人まで楽しめる場を提供できた。	雨の日対策の備品・消耗品などの用意。来場しやすいワークの検討。
ア 団体交流会 10 団体 21 名	市民公益活動団体同士の交流ができた。また、支援センターの前庭で非常食作り、室内で卓球バレーなどを行い、参加者全員が和やかに交流でき、新しい出会いもあった。	参加団体がある程度固定化しており、プログラム内容に工夫が必要。他の組織とコラボしての開催も検討していく。
ア るーぷらざ利用者交流会 11 名	るーぷらざ 2 階からの避難訓練・施設内探検ゲームなどを通じ、利用者間の交流を促進できた。同種の団体に限定した交流会の開催など、るーぷらざの有効利用につながる意見がもられた。	日程調整・広報・プログラム内容を検討し直し、テーマを明確化するなどの工夫が必要。
イ 南河内のつどい 近隣市町村との情報交換・啓発活動 世話人会 月 1 回開催 平均 20 名	シニア層から現役世代にすそ野を広げるための手段としての SDGs を新たな切り口として、近隣市町村との情報交換ができた。 世話人会内で SDGs をより深く理解できた。また、大学の学祭に参加し、一般人に向けて SDGs を啓発することができた。	世話人会の中では、SDGs を周知しテーマ化できたが、まだまだ一般への認知度が低く、大学・市民団体・CSR を意識した企業など、一般人への啓発の徹底が必要。
イ 南大阪中間支援センター交流会 「中間支援組織の広報」 30 名	新たな担い手を開拓するための広報戦略に関する情報交換ができた。	参加者が少なく、中間支援センターのニーズに応じた内容の検討が必要。
ア、イ ボランティア・市民活動フェスティバル 参加団体 105 参加延べ人数 6,600	市内小中学校のボランティア活動展示を新たに導入。行政・まち協・高校・大学・専門学校への働きかけと、ガイドブック新規掲載団体の参加等により、参加団体は前年の 84 から 105 団体に増加し充実した交流の場となった。	更なる団体間交流の仕掛け作り。若年層の掘り起こし。

受託者評価	A	行政評価	A
<p><めざす姿・状態へのコメント></p> <p>ア. 団体と個人、及び団体間の交流の促進・情報提供ができた。新しいプログラムを導入し、より広範囲に声掛けし、より充実した内容にできた。</p> <p>イ. 市内にとどまらず広い範囲での交流を通じ、今後のセンターとしての方向性を探ることができた。SDGs の切り口があらゆる世代への訴求力が有効であることが確認できた。</p>		<p><めざす姿・状態へのコメント></p> <p>ア. ボランティアフェスティバル等のイベントを通じ、団体の交流を図っている。その交流をネットワークとして、次のステップに進んでもらいたい。</p> <p>イ. 大学生等も参加するなど一定の世代交流は評価できる。</p> <p><その他></p>	
今後の取組みの方向性	方向性に対する行政コメント		
<p>団体交流会等では参加者が固定化してきており、ニーズに合ったプログラム内容の検討や日程調整をしていく。</p> <p>団体とのマッチングの促進・交流会やフェスティバル参加による組織間の連携など、地域型組織のサポートをより充実させる。</p> <p>より効果的に SDGs を啓発し、取り組みを進める。</p> <p>SDGs に限定せず、リタイア世代から現役世代の取り込み方法の確立を進める。</p> <p>防災ゲームの実施など、子どもが参加しやすい新企画を取り入れる。</p>	<p>・参加者の新規開拓出来るよう工夫を検討してもらいたい。また、地縁型組織や NPO 法人等、既存団体以外への支援の方策についても検討・実施できるよう努めてもらいたい。</p> <p>・SDGs は 1 つのツールになるが、SDGs に固執することないように、様々な情報を収集しつつ、交流促進に取り組んでいただきたい。</p>		

※評価は、S：期待以上に出来ている、A：期待通りに出来ている、B：一部に課題はあるが、出来ている、C：要改善 の意味。

④ 相談・コーディネートに関する事業

状態		
<p>ア. 市民公益活動を実施するうえでの各種課題に対する相談、助言を行う。</p> <p>イ. 市民公益活動団体同士や地域型組織、企業、個人など様々な主体をつなぐことにより、より効果的に市民公益活動が展開されるよう支援を行う。</p> <p>ウ. 市民公益活動支援補助金事業や協働事業提案制度への申込み等にあたり、相談・助言を行う。</p> <p>エ. 特定非営利活動法人設立の認証申請等に係る相談・助言を行う。</p> <p>オ. CBやSB等の新たな動きについても、相談・助言ができる体制を目指す。</p>		

取組みと成果・課題		
取組み・実績	成果・根拠	課題
ア、イ ボランティア・市民活動情報提供・相談コーナー 100件 ※詳細は(2)利用状況の相談件数を参照	ボランティアをしようと希望する来場者に、相談や団体活動情報を提供できた。福祉施設や自治会などとボランティア団体との新規マッチングにつながった。(5件成立)	相談員の質向上に関して、ハード・ソフト両面からのサポートが必要。
ウ 市民公益活動支援補助金制度サポート講座 「説明会及び活用の仕方を学ぶ講座」12名 「プレゼンテーション講座」5名	申請のポイント・申請時の注意事項など具体的な内容を周知できた。効果的なプレゼンテーションだけでなく、それを評価する立場のポイントを知る場を提供できた。	市の施策の後追いのため、新しい取り組みができず、PR内容・PR場所・周知期間など、今後市と共に改善策の検討が必要。
ア、イ ボランティアサポーター養成講座 “プロボノ”という社会貢献のかたち 9名	期間限定であれば現役世代にも受け入れられることを個人・ボランティア団体に伝えることができた。	参加者増の為、PRの内容・PRする場所・SNSの効果的利用など再考が必要。
ア、イ ステップアップ講座 「NGO」の基本と事例紹介 11名	地域活動にもNGOという国際的な視野が必要であることを個人・ボランティア団体に伝えることができた。	団体の視野を広げるという視点で、相談員の質向上のため今後も内容を検討していく。
ア、イ、ウ、エ、オ 相談コーディネート力向上のための外部研修・講習の受講 ボランティアコーディネート・SDGs・CSR・防災・減災・発達障害・居場所作り・多文化共生など 28受講	様々な分野のより深い理解と具体的な使い方・ビジネス手法を使った社会的な問題解決に関して学んだ多くの事例を、講座・勉強会・相談業務を通じて還元することができた。名刺交換等で、広範囲な交流を深めることができた。	受講した内容を関連団体へフィードバックする工夫が必要。
オ 相談コーディネート力向上のための勉強会 原則週1回 参加者4~7名 ガイドブック掲載団体の活動確認・会計・会社の種類・補助金・LGBT・CB・SBなど	相談技能向上に役立った。相談対応の基盤整備ができた。	更なるスタッフの技能向上

受託者評価	A	行政評価	B
<p><めざす姿・状態へのコメント></p> <p>ア. 新たな専従相談員を中心とした毎週の勉強会と、コーディネーター講座など外部の学習機会に参加し、相談における基礎知識の習得ができた。</p> <p>イ. プロボノ・NGOなど新たな切り口を使い、市民公益活動の支援ができた。</p> <p>ウ. 市民公益活動支援補助金制度の活用方法とプレゼンテーション方法を周知できた。</p> <p>エ. NPO法人設立に関する直接的な相談はなかった。</p> <p>オ. CB・SB等に関する情報収集ができた。</p>		<p><めざす姿・状態へのコメント></p> <p>ア. 相談の体制強化は評価できる。一方でマッチング以外の団体支援についてもより一層の強化してもらいたい。</p> <p>イ. 新たな切り口で支援出来た点は評価できる。</p> <p>ウ. 補助金制度サポート講座等により、団体支援を実施できた点について評価できる。</p> <p>エ. NPO法人の設立から活動支援するためのスタッフスキル向上について、より一層取り組んでももらいたい。</p> <p>オ. 情報収集は評価できるが、情報発信する等団体に情報が届く工夫を実施していただきたい。</p>	
今後の取組みの方向性		方向性に対する行政コメント	
<p>引き続き、様々な機会をとらえて相談者の力量を上げるとともに、出張型ボランティア活動の一覧表の作成などマッチングシステムのシステム化を図る。</p> <p>現役世代への訴求や視野を広げる新たな切り口で支援する。</p> <p>補助金制度の啓発に努める。</p> <p>勉強会を年間スケジュール化し、知識の体系化を図る。</p>		<p>・団体のニーズは変遷していくため、常に情報収集をしつつ、相談体制の強化に努めてもらいたい。また、スタッフ研修計画も作成し、実施してもらいたい。</p> <p>・既存団体の支援は継続しつつ、現役世代を中心とした新たな活動についても、ニーズ把握し支援に繋げてほしい。</p> <p>・補助金制度については、引き続き啓発及び支援をしてもらいたい。</p> <p>・団体の自立支援に向けて、必要なスキル向上を継続してほしい。</p>	

※評価は、S：期待以上に出来ている、A：期待通りに出来ている、B：一部に課題はあるが、出来ている、C：要改善 の意味。

(2) 事務局の事業

状態				
<p>ア. 各部会をサポートし、より効果的な事業の実現に努める。 イ. 各種研修等を実施し、スタッフのスキルアップに努める。</p>				
取組みと成果・課題				
取組み・実績		成果・根拠	課題	
ア	イベント情報作成 月1回 各1,000部	情報発信として団体のチラシを掲載し、団体の広報活動に協力した。	より見やすくするために、フォントやフォントサイズの見直しが必要。	
ア	Kawachi かわら版に掲載 年6回	センター業務の広報、新規掲載団体の紹介ができた。	限られた紙面であるが、イラストや写真による訴求が必要。	
イ	大学生のインターンシップ受け入れ事業 大阪大谷大学より2名	人材育成のノウハウを実践で身につけた。 若手現役世代の発掘につながるヒントを得ることができた。	インターンシップ終了後のフォローが不十分であり継続性がない。	
イ	スタッフ研修 会計・人権リーダー・LGBT・職場ハラスメント、フィランソ ロピー協会・CFKなどの研修会への参加	スタッフの事務の効率・質の向上につながった。 フィランソロピー協会で卓球バレーという啓発手段を手に入れた。	相談部会との定例学習会で全体化図るも、まだまだ限定的であり、継続性が問われる。	
イ	自衛消防訓練 年2回実施 1回目11名 2回目8名	緊急時のスタッフの対応力向上につながった。より多く参加するために、スタッフ会議の直前に行った。	脱出路の確認など、より実践的な訓練を目指す。	
受託者評価		A	行政評価	B
<p><めざす姿・状態へのコメント> 団体のチラシ掲載希望が増えるなど、情報発信に効果があった。 スタッフのレベルアップを図ることができた。 <その他></p>			<p><めざす姿・状態へのコメント> ア. チラシ掲載希望の増加は評価できるが、各部会の発行物や資料の校正等きめ細やかなサポートに努めてもらいたい。 イ. スタッフのスキル向上については一定評価できる。 <その他> ・スタッフの刷新により事務面で滞りがあり、一定の改善は認められるものの、さらなる改善を求める。</p>	
今後の取組みの方向性		方向性に対する行政コメント		
<p>センターの周知徹底のためニーズに合った情報発信に努める。 相談コーディネーター力向上のための勉強会などを通じて情報共有を図る。 メールマガジン・LINE公式アカウント・フェイスブックページ等を活用し、インターンシップ学生のフォローに活用する。</p>		<p>・情報提供部会がニーズにあった情報発信ができる等、各部会のサポート体制強化に努めてもらいたい。 ・若年層とのつながりは一定出来てきているが、継続的にネットワークが出来るよう工夫を凝らしていただきたい。</p>		

※評価は、S：期待以上に出来ている、A：期待通りに出来ている、B：一部に課題はあるが、出来ている、C：要改善 の意味。

3. 自主事業

取組みと成果		
取組み・実績	成果・根拠	課題
展示 市民まつり・ボランティア・市民活動フェスティバルにて、NPO 法人は びえるの活動内容を説明パネル・ポスター等で PR	NPO 法人としての情報発信をすることができた。	訴求力の高いパネル・ポスターの作成
ラミネートフィルム・コピー用紙・コーヒーコーナーでの飲み物の提 供販売	少しだけラミネートや印刷をしたい利用者に対する便宜を図れた。	
今後の取組みの方向性		
元々、支援センターの活動が NPO の目的であり、センター運営を離れた目標設定は難しいが、施設改変の話がある中で、NPO 法人としてのミッション（使命）を明確にし、バックキャスト方式で、それに至るための目標を定め、財源・会員増の意義を明らかにすることが求められる。		

4. 総括

受託者コメント	行政コメント
<p>①平成 30 年度の取組みについて</p> <p>事務局メンバーが大幅に入れ替わったこともあり若干の混乱はあったが、概ね既存の事業は遂行できた。SDGs に関しては当初手探り状態であったが、種々の講座・ワークショップに出席し、新たな知識と人間関係を築くことができ、事業遂行に活かすことができた。</p> <p>企業に関しては、社会的責任・社会貢献の側面からアプローチを試み、新たに河内長野ガスの南河内のつどいへの参加・ボランティア入門講座への参加などの成果が得られた。</p>	<p>①平成 30 年度の取組みについて</p> <p>河内長野市文化振興財団、河内長野市社会福祉協議会との協働事業であるボランティア入門講座でテーマとしてSDGsを取り上げたことによる普及啓発や、SDGsを切口に学生世代へのアプローチした点は評価できる。また、企業へのアプローチを試みた点は評価できる。一方で、就業規則の遵守や会計面、期限管理・校正等事務面での滞りという点では改善が必要である。</p>
<p>②平成 31 年度の取組みに向けて</p> <p>団体の出張型活動を一覧表にし、マッチングツールとして活用。企業の社会貢献活動もそれに取り込む。企業の社会貢献活動と団体の活動内容とのマッチングを図り、企業と団体の協働を促進する。</p> <p>SDGs を切り口に、まちづくり・既存団体の活性化・新規団体の立ち上げ・若年層の発掘等を行う。</p> <p>ボランティア・市民活動フェスティバル 20 周年記念事業として、持続可能な河内長野市を SDGs の側面から探る、パネルディスカッション形式のシンポジウムを開催する。</p>	<p>②平成 31 年度の取組みに向けて</p> <p>社会状況の変化について情報収集し、ニーズに合った情報提供を行うことで、まちづくり・既存団体の活性化・新規団体の立ち上げ・若年層の発掘等支援に取り組んでもらいたい。また、ボランティア・市民活動フェスティバルが20周年ということで、団体間の交流促進・団体の活性化が出来るよう、引き続き取り組んでいてもらいたい。</p> <p>一方で、平成30年度での改善点（労務管理・会計・期限管理・校正等）については、早急に取り組み、事務局スタッフの円滑な事務遂行を出来るような体制づくりの構築を進めてもらいたい。</p>